

令和3・4年度  
あきる野市立学校研究推進校

# 実践事例集



あきる野市立前田小学校

# 第1回 校内研究授業 道徳「明るく生きる」(A 正直、誠実)

令和3年10月20日

対象 第6学年1組

1. 主題名「明るく生きる」(A 正直、誠実)「手品師」(東京書籍)

2. 本時のねらい

どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

☆ すすんで学び合う児童の姿や、ICT活用の具体的な手立て



## ☆ミライシード オクリンクによる協働学習☆

オクリンクに2色のカードを用意し、自分が選択した方に考えを共有させることで、友達の考えを参考にしたり、新たに自分の考えをもったりすることができた。

集団検討場面では、児童の発言とともにオクリンクを提示することで、その児童の選択や考えた内容が、他の児童に視覚的に理解しやすいようにした。伝え合いを大切にするために、オクリンクに記入する内容を最小限にしたことで、児童の発言や反応を促すことができた。



## ☆児童の反応・ファシリテーション☆

児童が伝え合い・学び合いを深めるために、「反応」を大切にしている。話し手の一方的な発言にとどまらず、聞き手となった児童が、「なるほど」「どうして」など反応を示すことで、対話的で深い学びの実現を目指した。

そのために、教師は授業のファシリテーターとして、児童の発言や参加を促したり、話の流れを整理したりすることで、児童が主体的に授業に参加し、協働的に問題解決できるように働きかけた。

## 第1回 校内研究授業を終えて

ICTの活用を日常的に行うことで、スムーズにタブレットを操作したり、素早く自分の考えを入力したりできるようになった。また、ICTを活用する上でも、日々の授業から取り組んでいる「反応」や「ファシリテーション」によって、児童自身が「主体的・対話的で深い学び」を理解し、自信をもって学習している様子が見られた。

授業後の協議会でも、ミライシード・オクリンクを活用した。教員が実際に操作することで、授業での取り入れ方や活用方法について話題にすることができた。今後も、ICTを活用した授業改善を図りながら、校内研究を推進していきたい。

使用したデジタルコンテンツ



ミライシード オクリンク PowerPoint

## 第2回 校内研究授業 図工「コマコマアニメーション」

令和3年11月17日

対象 第5学年1組

1. 題材名「コマコマアニメーション」

2. 本時のねらい

物の動きに注目し、お互いの作品のいいところを見付ける。

☆ すすんで学び合う児童の姿や、ICT活用の具体的な手立て



### ☆タブレットを活用した作品づくり☆

Windows アプリ「カメラ」「フォト」を活用して、コマ撮りアニメーションを作った。一人1台のタブレットを使用することで、児童は自分自身で考え、思い付いたものをすぐに試しながら表現できた。

児童は、カメラ操作にもすぐに慣れてきたが、撮影時にぶれないように、画面タッチではなく、スペースキーを使って撮影するように指導した。

### ☆タブレットを活用した作品鑑賞☆

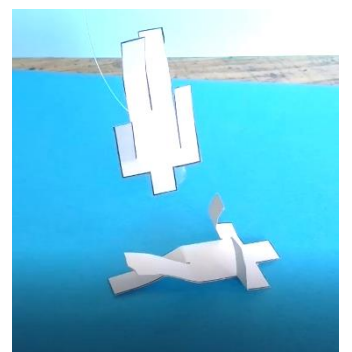
タブレットで作った各自の作品を表示しておき、児童同士でお互いの作品を鑑賞し合う場面を設定した。Windows アプリ「フォト」のリピート再生機能を活用すると、繰り返して作品を鑑賞でき、それぞれの作品のいいところを見付けやすくなった。さらに、完成した作品をプロジェクターで投影し、全体鑑賞を行なった。鑑賞した作品のいいところを、「ここがすてきカード」に記入して、お互いに伝え合うことができた。



## 第2回 校内研究授業を終えて

静止画を連続再生させてコマ撮りアニメーションを作り、鑑賞し合う授業では、Windows アプリを活用することで、自分自身で考えたものを、すぐに試しながら表現することができた。

鑑賞では、ネットワーク上で共有した作品を何度も再生させたり、途中で静止させたりしながら見ることができ、友達のいいところを認め合いながら、新しい見方や考え方を広げることができた。



コマ撮りアニメーション作成の様子

使用したデジタルコンテンツ



カメラ



フォト

# 第3回 校内研究授業 体育「マットを使った運動遊び」

令和3年12月8日

対象 第2学年2組

1. 単元名「B 器械・器具を使っでの運動遊び イ マットを使った運動遊び」

2. 本時のねらい

両手で支えての体の保持や、回転につながる動きができる。

☆ すすんで学び合う児童の姿や、ICT 活用の具体的な手立て



## ☆動画撮影による振り返り☆

授業のはじめに、「NHK for school」の動画を視聴して、前転や後転のポイントを確認し、つまずきやすい例など、児童に分かりやすい手本の動きを提示した。

次に、班ごとにセットしたタブレットで、一人ずつ後転の技を録画した。その後、ミライシードオクリンクで共有BOXに提出し、自分の動きを見直して振り返ったり、友達の動きを見て良いところを見付け合ったりしながら、技の習熟を深めることができた。

## ☆Microsoft Forms の活用☆

学習カードの代わりに、Microsoft Forms を活用して児童に毎回の学びや気付いたことを記入させ、授業の振り返り場面で大型モニターに映して確認した。

集約した児童全体の振り返り状況が、体育館ですぐに確認できるので、次時への目標設定にもつながった。

Forms のテキストマイニング機能を活用すると、振り返り文の中に、本時のねらいの言葉がどれだけ出てきたかも分かるので、授業の評価にも活用できた。



## 第3回 校内研究授業を終えて

後転では、正しく両手をついて起き上がることに焦点化できるように、児童用タブレットで撮影し、動きを確認しながらアドバイスし合う活動に取り組んだ。録画した動画を一時停止して見たり、スロー再生したりすることで、自分の課題をより詳しく見直せた。

また、Microsoft Forms で振り返りを行うことで、集計結果を素早く共有することができた。低学年からタブレットを活用することで、今後さらに学習の幅が広げられることが分かった。



児童用タブレットでの撮影の様子

使用したデジタルコンテンツ



ミライシード オクリンク Forms

## 第4回 校内研究授業 国語「ウナギのなぞを追って」

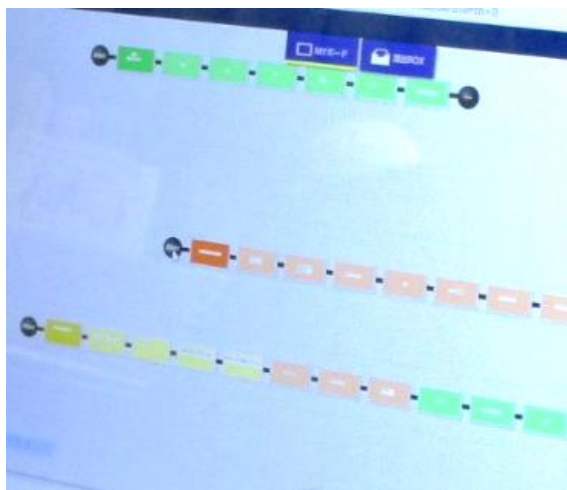
令和4年2月2日  
対象 第4学年1組

1. 単元名 「きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう」(光村図書)  
教材 「ウナギのなぞを追って」

2. 本時のねらい

テーマに沿ったキーワードについて交流し、必要な言葉を選ぶことができる。

☆ すすんで学び合う児童の姿や、ICT 活用の具体的な手立て



### ☆個人の考えの出しやすさ☆

オクリンクを使ったキーワードカード作りは、手書きの付箋に比べて文字が読みやすく、容易に作成できるので、カードを次々に追加することができた。

考えたことを文で書くことが苦手な児童も、キーワードカードを選んだり並び替えたりすることで、自分の考えをまとめるイメージがもてるようになってきた。

オクリンクは、カードのコピーや付け加え、入れ替えも簡単にできるので、文章を書くときの流れを確認する際にも役立った。



### ☆ミライシード オクリンク による協働学習☆

友達の考えをグループで同時に確認できるので、友達のカードを必要に応じてコピーし、自分のシートに貼り付けて活用していた。グループ内では一人ずつ異なる色のカードを使ったので、友達の意見を取り入れたことも分かりやすかった。つなげたキーワードカードを使って、友達にことばで説明したことを、文章に書けばよいことにも気付くことができた。

## 第4回 校内研究授業を終えて

「書くことが苦手な児童の『書けない、分からない』をなくしていきたい」という、担任の思いが込められた、提案性の高い授業展開であった。

オクリンクを活用することで、話し合うきっかけができたり、意欲の向上につながったり、書き直しの作業がないので、抵抗なく取り組める有効な手立てになると考えられた。

抽出児童の設定方法や Teams を活用した別会場での参観方法など、研究協議会で出されたいろいろな可能性についても検討しながら、今後の研究につなげていきたい。

使用したデジタルコンテンツ



ミライシード オクリンク

# 第5回 校内研究授業 算数「分数のかけ算を考えよう」

令和4年5月25日

対象 第6学年2組

1. 単元名 「分数のかけ算を考えよう」(東京書籍)

2. 本時のねらい

分数÷整数の計算の仕方の意味を考えることができる。

☆ すすんで学び合う児童の姿や、ICT 活用の具体的な手立て



## ☆授業支援ソフトによる思考の整理☆

ミライシードオクリンクで、教師が数直線図を貼り付けたカードを送り、児童は送られたカードに数や印を書き入れながら、立式できるようにした。数直線図だけのカードを送ったので、児童は視点を絞りやすくなり、検討場面でも、焦点化しやすくなった。また、カードを示しながら説明ができるので、伝え合ったり学び合ったりする意欲付けにもつながった。

教師は、児童の考えを集約し、意図的に並べ替えながら全体共有ができるので、分類整理がしやすくなった。

## ☆児童同士の見方・考え方の比較☆

オクリンクの提出BOXには、児童のいろいろな考えが集まるので、早く提出した児童は、友達のカードを見て、同じ考えや異なる考えを確認しながら、思考を深めることができた。また、自分の考えがなかなかまとまらなかった児童にとっては、友達のカードがヒントカードとなり、自力解決の助けにもなった。

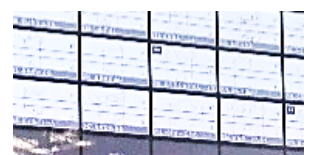


## 第5回 校内研究授業を終えて

オクリンクを自力解決の場面で使うことで、自分の考えがなかなかまとまらなかった児童も、友達の考えを参考にしながら取り組めるようになり、全員に考えをもたせることができた。全体での練り上げ場面では、それぞれのカードを、教師が分類整理しながら示すことで、いくつかの考えを比較しながら、児童の気づきを促すことができた。

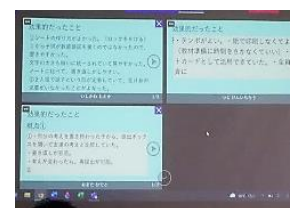
協議会で出た、「誤答から学ばせたい場面などに、提出者名を非表示にする配慮はできないか」という意見について、すぐにメーカーに問い合わせると、児童名を表示しない新たな方法が分かった。

授業支援ソフトの活用方法について意見交換し、今後の授業ですぐに活かせるスキルを共有することができた。



児童全員の考えが集まった

提出ボックス



協議会でもオクリンクで意見集約

使用したデジタルコンテンツ



ミライシード オクリンク PowerPoint

# 第6回 校内研究授業 理科「こん虫を調べよう」

令和4年6月8日  
対象 第3学年1組

1. 単元名 「こん虫を調べよう」(東京書籍)
2. 本時のねらい  
昆虫の体のつくりを観察し、結果を考察したり表現したりしながら問題を解決する。

☆ すすんで学び合う児童の姿や、ICT 活用の具体的な手立て



## ☆デジタル教科書の活用☆

単元を通して児童に親しみのある昆虫を扱っているが、詳しく観察した経験は少ない。実際に昆虫を捕まえられなかったり、捕まえても動いてしまったりするので、細かい部分まで観察することは難しい。

デジタル教科書のコンテンツを活用すると、児童が思い思いに写真を拡大したり、回転させたりしながら、意欲的に観察することができた。実際には見えにくい部分まで確認できるため、虫が苦手な児童にも詳しく観察できることは、大きなメリットである。



## ☆学びの共有☆

デジタル教科書でじっくり観察し、気付いた昆虫の体のつくりを、タブレットで指し示しながら伝えることで、気付きの共有がしやすかった。また、頭、胸、腹の境目が曖昧な昆虫についても、児童同士でタブレットの画像を拡大したり回転したりしながら相互に意見を出し合い、学びを深めていた。

## 第6回 校内研究授業を終えて

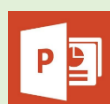
デジタル教科書には、授業で活用できるコンテンツがたくさん掲載されているため、教師は内容をよく吟味した上で、より効果的な提示の仕方を工夫することが必要である。今回の授業では、昆虫の体を拡大したり回転させたりできるコンテンツを活用することで、実物よりも見やすくなり、一人でじっくり観察したり、友達と意見交流をしたりしながら、学びを深めることができた。

一方、デジタルではなく実物を扱う良さもあるので、「授業での提示場面を工夫することで、より児童の関心に沿った学習展開ができるのでは」という意見も出た。



デジタル教科書で気付いたことを、  
実物で確かめる児童

使用したデジタルコンテンツ



デジタル教科書 PowerPoint

# 第7回 校内研究授業 生活科「小学校へようこそ」

令和4年6月15日

対象 第2学年1組

第2学年2組

1. 単元名 「小学校へようこそ」(大日本図書)

2. 本時のねらい

1年生の気持ちを考えながら、自分たちができることを考えて、交流する。

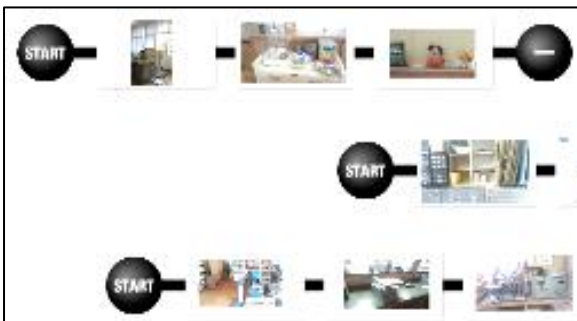
☆ すすんで学び合う児童の姿や、ICT 活用の具体的な手立て



### ☆説明用ツール☆

この単元では、学校探検で各教室を説明するためのツールとして、タブレットで事前に撮影した写真を活用した。この方法は、児童が考え出した工夫であり、タブレットを1年生から使用してきたことで、写真を活用すると視覚的に分かりやすいことが、児童の中に浸透していることが分かった。

また、口頭での説明が苦手な児童も、写真があることで説明の手助けになり、聞く側の1年生も、視覚的な支援で興味をもって聞くことができた。



### ☆オクリンクのグループ活用☆

オクリンクのカードを、児童同士で送り合える共有機能を活用して、グループのメンバーが撮影した写真をオクリンクでグループリーダーに送り、一枚のカードにまとめて、1台のタブレットで、学校内のいろいろな場所の説明ができるようにした。

## 第7回 校内研究授業を終えて

2年生は、昨年度からタブレット活用を続けてきたので、学校探検の各教室の説明場面でも、タブレットの操作に戸惑うことなく、しっかり活用しながら各教室の説明を行うことができた。

全体協議会では、写真を選んだ視点や普通教室との相違点、写真の撮影バランス、どの部分を焦点化すべきかなど、事前確認の必要性についても意見が出た。

低学年児童でも活用できそうなICTについて話し合い、今後の指導につなげることができた。



説明を聞いた後、実際にその教室を見て歩く児童たち

使用したデジタルコンテンツ



カメラ ミライシード オクリンク



# ことばの教室 タブレットを使った『ひらがな音読支援』

—校内の1年生への実践を通して—

「読み書き」につまずきがある児童は、学習への抵抗感を感じて、自己肯定感を低下させやすい。そこで、小学校1年生の段階で、ひらがなの読みが苦手な児童を見付けて、早期に支援できないかと考え、令和3年度より「T式ひらがな音読支援」に取り組んだ。これは、1年生全員に、年3回（6月・11月・2月）音読検査（読みスキルの評価）を行い、指導対象の基準に該当した児童に、タブレットで『ディスレクシア音読指導アプリ』を用いて、1日5分間のひらがな音読指導を、21日間実施するものである。

## 『ディスレクシア音読指導アプリ』（ひらがな直音）

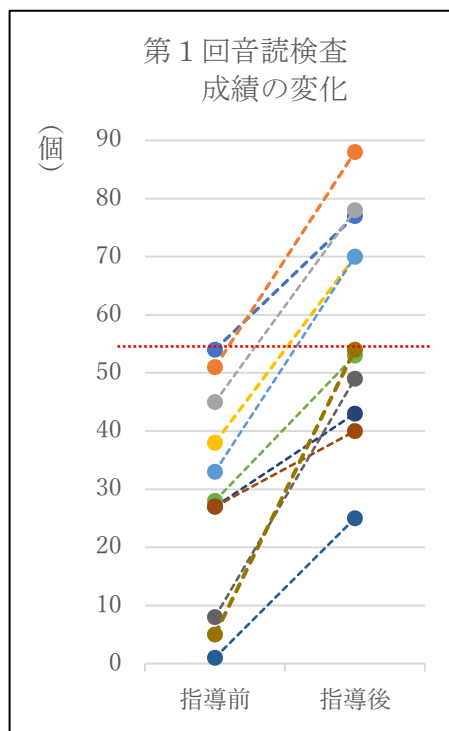
ひらがな（清音・濁音・半濁音）70文字がランダムに3回ずつ現れる。文字が表示されてから2秒後に読み上げ音声が流れる。音声が流れる前に読めたら○印をタップする。読めなかったり間違えたりしたら、正しい読み方を言わせてから×印をタップする。同じ文字が3回○になると現れなくなるため、すでに読める文字はすぐに現れなくなり、読めない文字だけが残って効率よく練習ができる。すべて読めたらリセットして、最初から同じ練習を繰り返す。

昨年度6月、1年生55名に、第1回の音読検査（拗音を含まない「直音音読検査」）を実施し、1分間の音読文字数≤54個の11名が、指導対象となった。

ことばの教室指導者3名が、中休み後のタブレットタイムと給食準備の時間を活用し、指導対象となった11名を個別に取り出して、1日5分間のタブレットでの指導を実施した。

21日間の指導後、再度音読検査を実施したところ、全児童で成績の向上が見られた。また、著しい伸びが見られなかった児童でも、保護者から「以前は文字を全く読もうとしなかったのに、かるたの読み手をしたがるようになった」との声が聞かれた。

第2回（11月）は、拗音を含んだ読みの検査をし、指導対象となった児童は、第1回でも指導対象となった6名を含む9名だった。第3回（2月）は、さらに短文を追加した音読検査を実施し、指導対象者は3名に減少した。さらにこの3名は、通級指導へつなげることができた。成果が認められたため、今年度も継続実施している。



## 『ひらがな音読支援』を継続してきて」

この指導は、紙の文字カードでも同様に実施することができるが、タブレットを活用することにより、児童がゲーム感覚で楽しく取り組むことができ、抵抗感が少なかった。また、同じ文字を3回正答すると自動的に現れなくなるため、指導経験の有無などに関わりなく、効率よく誰もが実施できるメリットを感じた。このアプリはWeb版もあり、無償で利用可能なので、保護者にとっても活用しやすいと思われる。今後、さらなる活用方法を検討していきたい。

使用したデジタルコンテンツ



ディスレクシア音読支援アプリ

## おわりに

あきる野市立前田小学校 副校長 小野田 吉克

「GIGA スクール元年」となる令和3年度より、あきる野市立学校研究推進校の指定を受け、一人1台の端末を有効活用した研究・授業実践に、教職員一丸となって果敢に挑戦してまいりました。

まず、校長が先陣を切ってICT活用のためのオンライン研修を受け、教職員にその内容を紹介しました。授業支援ソフトの導入を検討する際には、いくつもの会社から説明を受けて、その度に全員でソフトの使い心地を試し、吟味していきました。ICTに興味関心の高い複数の教員が、自主的にICT活用について学んでタブレットを使い始め、徐々にICTの導入に抵抗感のあった教員も使うようになりました。

初めは、タブレットを使えるだけではしゃいでいた児童も、今ではすっかり使い方に慣れて、あたりまえのように授業での意見交流や集会活動でも活用しています。

教員の情報機器活用能力が十分とは言えない中でのスタートでしたが、各々が自主的に学び、得た知識を教え合い、学び合いながら、本日の研究発表会を迎えることができました。

校長の指揮の下、新しい取り組みに前向きに協働する本校教職員の姿は、児童の手本として申し分ないものであり、誇りに思っています。今後も、ICTの活用を通した個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて、研鑽を深めてまいります。

これまで御指導いただきました、あきる野市教育委員会、ならびに前田小学校の研究を支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。